

たくましいからだをはぐくむ健康・体力づくり実践事業

②

— スポーツ健康課 —

○ 6月号では、本事業実施の概要についてお知らせいたしました。今回は、7月までの経過と今後の予定等について概要をお知らせします。

1 新体力テスト・健康実態調査の実施

4～7月にかけて本事業の柱の一つである、新体力テスト・健康実態調査（以下調査）を、県内の全公立小・中・高等学校（定時制を含む）において実施しました。初めての試みという学校もあり、実施時期や行事等の運営方法、データの入力など課題もありましたが、各学校の積極的な取組により、対象全ての学校において実施することができました。



(1) 新体力テスト説明会の実施

本事業の趣旨及び調査の実施方法等についての周知徹底を図ることを目的に、4月13日、小瀬スポーツ公園武道館アリーナにて県内公立小・中・高等学校体育担当教員等約350人の参加のもと、実技も交えながら、実施上の留意事項等具体的な事項について説明を行いました。説明後、参加者から事業の意義や内容、体力テストの教育課程上の扱いや運営方法、PCへのデータの打ち込み作業など多くの質問や意見が出され、熱心な質疑応答がなされました。

A 小学校の実施からの反省より
【実施時期について】
 ・要した時数や体育の計画を考えると5月中旬（水泳の前）までに終了したい。
【実施方法について】
 ・短時間で効率よく行うには、全校・学年・兄弟学年で行う種目を考え実施する必要がある。
 ※要した時間：4（高）～8（低）時間
【実施しての意見等】
 ・総合D・E判定の子が半数以上。スポーツ経験のある子とそうでない子の差がはっきりしている。
 ・早々にあきらめてしまう子が目について。
 ・低学年はテストへの理解が低いため、能力を最大限生かした結果かどうか疑問。
 ・体育の授業の充実（運動員の確保）、休み時間等の活用も考える必要がある。
 ・個人データは、個別懇談で保護者にわたし説明。保護者にも健康・体力への意識を高めてもらう。等々
 ※集計結果や考察、今後の取組など学校保健委員会の資料としても示しました。

(2) 本調査の対象者数

前述のとおり、本調査は全公立小・中・高等学校を調査対象としています。本年度の本県の調査対象校数及び対象者数を表Ⅰに示しました。実際には欠席等で全種目及び一部実施不可能な児童生徒もいますので、実際の標本数等詳細については集計結果とともに示していきます。

学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	合計
小	1,512	1,524	1,536	1,548	1,560	7,680
中	1,512	1,524	1,536	1,548	1,560	7,680
高	1,512	1,524	1,536	1,548	1,560	7,680
計	4,536	4,572	4,608	4,644	4,680	22,040

(1) 2 今後の予定について

データ集計について
 今回提出された新体力テストの各種目の平均値は全県だけでなく、地域別の数値も公表いたします。また、健康実態調査については、各質問項目の選択肢別に各種目の平均値を示し、生活習慣と体力の関係についても比較できるようにしていきます。

① 地域ごとの集計について

表Ⅱに示すように小・中学校は、(市町村合併等も考慮し)15地域に、高等学校は6地域及び定時制に分けて集計します。

② 健康実態調査の各質問項目について

健康実態調査については、表Ⅲに示す質問項目の各選択肢の分布(割合)と各種目の県平均値を示します。

(2) 分析等について

これらのデータの集計及び分析については、総合教育センター情報教育部の協力をいただきながら、山梨

表Ⅱ 新体力テスト集計の際の地域割り

地域	小学校数	中学校数
	甲府・中道・上九一色（北部）	27
南アルプス	15	7
甲斐	11	5
笛吹・芦川	14	6
山梨	12	3
塩山・勝沼・大和	13	5
韮崎	5	2
北杜・小淵沢	15	9
都留	8	3
富士吉田	7	4
大月	15	6
上野原・丹波山・小菅	12	9
玉穂・田富・豊富・昭和	9	3
難波・観・身・藤・朝・瀬・三・利根	27	15
富士河口湖・諏・湖・山・神・穂・志・九一色（南）	15	9
地域等	高等学校数	
甲府	8	
峡中	3	
峡東	5	
峡南	4	
峡北	4	
富士北麓	10	
定時刻	9	

表Ⅲ 健康実態調査調査項目及び選択肢

項目	選択肢
1. 運動部やスポーツクラブ等への所属	ア 入っている イ 入っていない
2. 運動の頻度（体育以外）	ア ほとんど毎日 イ 時々 ウ ときたま エ ほとんどしない
3. 運動時間（体育以外）	ア 2時間以上 イ 1～2時間 ウ 30分～1時間 エ 30分未満
4. 朝食摂取	ア 毎日食べる イ 時々食べない ウ 毎日食べない
5. スナック菓子や炭酸飲料の摂取	ア とらない イ 時々とる ウ ほとんど毎日とる
6. 家族との夕食	ア いつも家族と イ 時々子どもだけ ウ ほとんど子どもだけ
7. 家庭料理	ア 家族（大人）が作ったもの イ 子どもが作ったもの ウ 作ってある弁当やパン
8. 睡眠時間（ ）は小学生	ア 7(8)時間以上 イ 5(6)～7(8)時間 ウ 5(6)時間未満
9. 家庭学習時間（平日） ※小学生は学年により時間が異なります。	ア 2時間以上 イ 1～2時間 ウ 30分～1時間 エ 30分未満
10. TV視聴時間（ビデオ・テレビゲームも含む。平日）	ア 1時間未満 イ 1～2時間 ウ 2～3時間 エ 3時間以上

(3) 一校一実践運動について

各学校では、自校の調査結果から体力・健康についての課題を明確化し、体力の向上を目指した取組を進めていくこととなります。県では結果の公表の時期と合わせて一校一実践運動の実施について各学校に通知していきます。

○ 次回は、集計結果に基づく本県の体力の傾向と「一校一実践運動」についてお知らせする予定です。

「キャリア教育実践プロジェクト事業」

● 義務教育課

1 はじめに

文部科学省では、明確な目的意識をもって日々の学業生活に取り組み、児童生徒が「生きる力」を身に付け、激しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できるなど、社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育を推進するために、「キャリア教育実践プロジェクト事業」を進めています。

山梨県でもこの事業を受け、今年度より取り組んでいます。

2 事業期間

平成十七年度～平成十九年度

3 推進指定地域・指定校

県内では、次の2つの地域を指定し、地域内の中学校を指定校として取組を進めています。推進指定地域は単年度指定です。したがって来年度は別の地域が指定となります。

○甲斐市	。竜王中学校	。竜王北中学校
	。敷島中学校	。双葉中学校
○大月市	。大月第一中学校	。猿橋中学校
	。富浜中学校	。梁川中学校

4 推進指定地域・指定校の研究内容

◎指定校は、事業実施の目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、事前指導・事後指導を含む活動、指導方法や指導体制、活動の評価計画をもち込んだ全体計画を作成し具体的に次の実践研究を行っています。

5 推進体制の整備

- ◎事業を円滑に推進するために、「支援会議」及び「実行委員会」を開催しています。
- ◎支援会議（県教育委員会主催）
- ◎参加者 大学教授、中小企業団体中央会・商工会連合会・商工会議所連合会・山梨県経営社協会・山梨県農業協同組合中央会・山梨県労働局職業安定部職業安定課・山梨県県小中学校PTA連合会・山梨県商工労働部労働雇用課・指定地域実践校代表者、指定地域教育委員会担当者、事務局
- 主な協議内容
- 推進地域への適切な指導・助言
- 職場体験が円滑に実施されるよう事業所、企業等受け入れ等についてのシステムづくり

6 指定校の取組状況

- ◎大半の学校が職業調べやキャリア・アドバイザーからの指導を受け、一学期から夏休みを中心に職場体験を実施しました。また、連続5日間という取組は一校にとどまり、大半の学校では分割で実施しました。
- ◎体験内容は、農業・林業体験、製造業・商店・保育園・福祉施設など多様な場所での体験活動が実施されました。

7 今後の取組

- ◎指定校では、事後指導として体験活動のまとめを行います。また、教育課程への位置付けなど全体計画に対しても評価をしておく予定です。
- ◎支援会議では、これからの取組において次のことが話し合い出されました。
- ①各学校でキャリア教育の意義をしっかりとらえ、事前学習なども含め取り組むこと。また、そのことを十分受け入れ事業所にも理解していただくこと。
- ②広報活動を行うなどし、受入事業所の拡大
- ③職場体験活動の安全対策

開館企画展 やまなしの道祖神祭り

—どじつぞじん・ワンダーワールド—

—県立博物館—

1月の14日の夜を中心として、山梨県の各地では道祖神祭りが盛んに行われています。多くの地域で行われている道祖神祭りは、みなさんにとっても親しみのある祭りであると思います。

そこで、身近であるからこそ見過ごしがちな道祖神祭りの習俗の、今の姿を捉えるとともに、祭りにはどんな意味があるのか、どのような歴史を背負って現代まで伝えられてきているかなどについて、改めて考えてみたいと思います、この展示を企画しました。道祖神祭りという身近に息づいている祭りの展示を通し、地域の文化と歴史を再発見していただければと思います。

展示会では、まず現在行われている道祖神祭りに注目します。県内各地の道祖神祭りの飾り



北杜市明野町上神取のオヤナギ

物を展示し、それらに込められた様々な願いを紹介いたします。ドンドンヤキや、七福神・春駒など県内各地に伝承される小正月の道祖神祭りにもなっている民俗芸能についても紹介いたします。さらに、成人儀礼や新婚夫婦の氏子入りなど、通過儀礼としての意味を持つ道祖神祭りや、ワカイシユナカマなどによって脈々と受け継がれてきた道祖神祭りの祭礼用具に注目し、祭りを担う人々にとっての道祖神祭りの意味を考えます。

次に、江戸時代の甲府の城下町の道祖神祭りで使われた幕絵を展示し、当時の都市の道祖神祭りの雰囲気を感じていただきます。また、現代に生き続ける都市の道祖神祭りとして、甲府魚町の道祖神祭りを紹介いたします。

最後は、山梨県内に見られる様々な道祖神の石造物の分布を紹介するとともに、道祖神信仰の歴史について考える展示です。中世の絵巻物に描かれた丸石神や、韓国や日本の古代の遺跡から発見された道の祭祀に関わる木簡・木製品など、道祖神信仰を解き明かす鍵となりうる資料を展示し、民俗学だけでなく、古代史や絵画史の視点からも、道祖神信仰の歴史と源流を探

ります。

道祖神祭りやその信仰は、専門的にもまだ研究途上の分野です。展示会では、みなさんに華やかな道祖神祭りの雰囲気を感じていただくとともに、道祖神信仰の多様な世界を垣間見ただきたいと思います。

また、今なお解明しきれない道祖神信仰の謎を、この展示をきっかけに、みなさんと一緒に解き明かしていきたいと思っています。



山梨市三富川浦雷のオコヤ

年初に地域の繁栄と豊穡・安全を祈る道祖神祭り。この祭りにあやかり、新たに開館する山梨県立博物館の今後の発展の願いを展示会に込めたいと思います。



「先生は翻訳者」

雨宮 貴雄

自分の意志や判断や目的を相手にわかりやすく伝えることを苦手とする児童生徒がいます。一般的に表現の方法は、ことばを用いますが、目の動きや表情や行動で表現します。

その表現は、伝えようとする目的を持っていないように見え、「誰に・どの程度・どのように」伝えようとしているのか、表現の意図も不明確なようにも見えます。伝えたい内容を理解するには、そのような表現の中から、「何を・誰に・どのように」伝えようとしているのかを見いだそうとする意識が必要です。

本校には、我々には理解できない表現を翻訳者かのように、児童生徒の意図にそった対応ができる先生がいます。もちろん、全てを翻訳しているのではないと思いますし、児童生徒が納得する他のものに置き換えることができるのです。

それは、児童生徒の意図にそった表現に気づいたり、表現のある部分に着目し隠された意図を見つけ、伝えようとしている児童生徒と目的を共有しているからこそできるのです。

児童生徒の理解は、どんな表現方法であれ、その表現の中に「何を・誰に・どのように」伝えようとしているのかを見いだそうとする『意識のスイッチ』と、『翻訳』しようとする心が必要だと思えます。

(かえで養護学校)

らくがき

太陽光発電ライフ

芦澤 泰徳



近年夏場の暑さは「すさまじい」の一言。どこの先生も生徒も暑さに耐えて頑張っていることでしょう。台風も大型で数多くなり、まさに異常気象である。去る'97年、京都で開かれた地球温暖化防止京都会議を受け、我が家では、“自力でこの温暖化を阻止し、地球を救いたい”、「グローバルに考え、足下から実践する」ということで、'00年5月、屋根に太陽光発電設備を設置した。

これがなかなか楽しい。毎日発電量をチェックし、当初は“晴れろー”と祈ったものだが、雨もなければ作物が育たない。いろんな天気があつての地球、晴れもよし、雨もよし。風もよし。自然により敏感になり、親しむようになった。一年間の発電量は4100kwh、石油に換算して1000リットル（ドラム缶5本分）に相当する。クリーン電力である。

自宅裏の畑。昨年12月から今年2月に、知人に教わりながら、家族で屋根の2倍の太陽光パネル設置工事を行った。架台組立、パネル取付、電気工事など、ものづくりの楽しさも味わえた。そのパネルの下では、季節の野菜や花が元気に育ち、食卓を賑わわせ、畑に彩りを与えている。

地球環境悪化や温暖化。『地球からの宿題』に、私達教師はどんな答えを出せるのでしょうか。

(増穂商業高等学校)

企画展「山の文学展 日本人美と「いろのなまむす」

会期 9月23日(金)～11月27日(日)

県立文学館

わたしたち日本人が、どのように山と向き合い、何を思い、どのような文学作品を生みだしてきたかをテーマに、日本の山の文学の流れを紹介していきます。古代の万葉人が大和三山や富士山、立山の秀麗な姿を詠んだ歌をはじめとして、山と宗教、近世から明治初期のさまざまな旅人たちの山、そして近代登山文学への流れをたどっていきます。

写真は、作家横光利一が深田久弥に宛てた葉書です。一九三六（昭和十一）年六月十九日の消印で、ヨーロッパ旅行中にチロルから送った便りです。ムッテンワルドという駅から見た山々の素晴らしさが「僕の通過地の中で第一等です」と記しています。深田久弥はのち、『日本百名山』を著し、これは今も多くの読者をもつ山の名著となっています。

展示では、播隆上人「信州鎗嶽畧縁起」、小島烏水「日本中央大山系横断記」（ウエズトン著）抄訳ノート、深田久弥「日本百名山」原稿、志賀直哉「暗夜行路」原稿などのほか、図書・雑誌・絵画・写真など約五百点を出品します。



横光利一（深田久弥宛葉書）